

専修以外の基礎科目

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
人文統計学	統計学の基礎	2	水野 景子	3	月曜4限
人文統計学	推測統計と多変量解析の 基礎	2	浜田 宏	4	水曜3限
学術英語演習Ⅰ	アカデミック・ライティングⅠ (英文ライティング)	2	TINK JAMES MIC HAEL	4	月曜3限
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	佐藤 元樹	3	金曜3限
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	佐藤 元樹	4	金曜3限
英語論文作成法	Academic Writing in English I	2	STEPHEN HALE	3	水曜2限
英語論文作成法	Academic Writing in English II	2	STEPHEN HALE	4	水曜2限
ギリシャ語	アリストテレス『形而上学』 第12巻講読	2	嶺岸 佑亮	3	月曜3限
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門(1)	2	今井 誠二	3	水曜4限
ギリシャ語	アリストテレス『形而上学』 第12巻講読	2	嶺岸 佑亮	4	月曜3限
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門(2)	2	今井 誠二	4	水曜4限
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原 理	3	火曜3限
ラテン語	ラテン語文法入門・文法基 礎	2	宮崎 正美	3	金曜3限
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原 理	4	火曜3限
ラテン語	ラテン語文法および読解	2	宮崎 正美	4	金曜3限
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習Ⅰ	2	渡辺 亮	3	木曜3限

専修以外の基礎科目

サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習 II	2	渡辺 亮	4	木曜3限
中国語	中国語中級作文	2	張 佩茹	3	水曜2限
中国語	中国語中級作文	2	張 佩茹	4	水曜2限
朝鮮語	韓国語入門	2	権 来順	3	水曜2限
朝鮮語	初級韓国語	2	権 来順	4	水曜2限
イタリア語	イタリア語上級	2	MARINUCCI LORE NZO	3	水曜4限
イタリア語	イタリア語初級	2	MARINUCCI LORE NZO	3	木曜3限
イタリア語	イタリア語中級	2	MARINUCCI LORE NZO	3	木曜4限
イタリア語	イタリア語上級	2	MARINUCCI LORE NZO	4	水曜4限
イタリア語	イタリア語初級	2	MARINUCCI LORE NZO	4	木曜3限
イタリア語	イタリア語中級	2	MARINUCCI LORE NZO	4	木曜4限
専門中国語	中国語中級読解	2	張 佩茹	3	火曜3限
専門中国語	中国語中級読解	2	張 佩茹	4	火曜3限
専門ドイツ語	ドイツ語読解力の養成とド イツ語基礎の徹底	2	松崎 裕人	4	水曜4限
漢文講読	漢文訓読入門	2	矢田 尚子	3	月曜4限
漢文講読	漢文訓読入門	2	矢田 尚子	4	月曜4限

科目名：人文統計学

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：水野 景子

コード：LB31407, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：統計学の基礎

2・授業の目的と概要：本授業の目的は、受講生が社会科学（社会学・社会心理学）における統計学の基礎を学ぶことである。特に、データ収集・測定の方法の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。

3. 学習の到達目標：・官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになること。

- ・統計ソフト R (Rstudio) および R markdown を使ってデータ成形、基本的な図表の作成、数値要約、分析結果の報告ができること。
- ・分析結果について解釈できること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- ・対面での講義およびコンピュータによる実習を行います。グループワークは行いません。
- ・毎回、スライド資料と紙の資料を配布します。
- ・毎回の授業中に課題を行う時間を設け、授業終了時に提出を求めます。
- ・事情で大学に来られない回には、オンライン（Zoom）での受講を認めます。要：事前のメール連絡
- ・本授業に関して不安なこと、配慮を希望すること、質問等があれば、いつでもメールにてご連絡ください。

1. 統計学は社会科学においてどのような役割を果たすのか：社会科学と統計学（イントロダクション）

2. R、Rstudio、R markdown の基礎

3. データと測定

4. 1 つひとつの変数の分析 (1) 図表を用いたまとめ

5. 1 つひとつの変数の分析 (2) 数値要約

6. 2 つの変数の関係についての分析 (1) 離散変数同士の場合：クロス表

7. 2 つの変数の関係 (2) 離散変数と連続変数の場合：分散分析

8. 2 つの変数の関係 (3) 連続変数同士の場合：散布図、相関係数

9. 関連を疑う：疑似相関と変数の統制

10. 変数の変換

11. データの整理および分析のための前処理のしかた

12. R markdown による分析レポートの報告のしかた

13. データ分析実習 (1) 授業内容を踏まえて与えられたデータを分析する

14. データ分析実習 (2) 授業内容を踏まえて与えられたデータを分析する

15. 授業のまとめ・ふりかえり

5. 成績評価方法：平常レポート（毎回の授業中に提出する課題）50%、定期試験 50%

6. 教科書および参考書：教科書：毛塚和宏『社会科学のための統計学入門—実例からていねいに学ぶ—』、講談社、2022。
ほかの参考書については、授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：1 回の授業につき 30 分程度、授業で扱った重要な概念や考え方を自分の言葉で説明できる程度に配布資料を読んで復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

社会調査士資格認定標準科目 C に対応。

科目名：人文統計学

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：浜田 宏

コード：LB43307, **科目ナンバリング：**LHM-PRI201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：推測統計と多変量解析の基礎

2・授業の目的と概要：社会調査に必要な統計学について学ぶ。特に、統計的推測・仮説検定の考え方や、パラメータの検定・推定、回帰分析などの手法について理解する。

3. 学習の到達目標：社会調査に必要な統計学について理解し、自ら適用できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：確率変数の基礎
2. 統計的推測
3. 母数の仮説検定
4. OLS 回帰
5. 回帰係数の OLS 推定 (1)
6. 回帰係数の OLS 推定 (2)
7. 重回帰モデル：複数の説明変数
8. DAG と構造的因果モデル
9. 統制変数と DAG
10. 漸近理論の基礎
11. 条件付き期待値による回帰 (1)
12. 条件付き期待値による回帰 (2)
13. 内生性と操作変数法
14. 操作変数法と DAG
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席 (50%)、期末試験 (50%)

6. 教科書および参考書：[教科書] 鹿野 繁樹, 2015, 『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』日本評論社.

7. 授業時間外学習：教科書と配布資料で予習・復習をし、課題に取り組む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本授業は、社会調査士カリキュラムの D 科目 (「社会調査に必要な統計学に関する科目」) に該当する。

科目名：学術英語演習 I

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：T I N K J A M E S M I C H A E L

コード：LB41304, **科目ナンバリング：**LHM-LIT341E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：アカデミック・ライティング I (英文ライティング)

2・授業の目的と概要：このクラスでは、アカデミック・エッセイの書き方を学びます。毎週、トピックや論文の準備から段落の構成、編集に至るまで、執筆プロセスの各段階を確認します。学期前半では、5 段落のエッセイを書き、後半では、アカデミックな仕事における出典の正しい使い方、剽窃の回避、引用の種類について学びます。コース終了時には、生徒自身が選択した学術的なトピックについて、引用と文書化を伴う 2 本目のエッセイを作成する。

3. 学習の到達目標：1: 英語でエッセイ・論文を書く。

2: 人文科学における学術報告書の作成段階を学ぶ。

2: アカデミックな引用方法を学ぶ。

4: 英語でのコミュニケーションに自信を持つ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 はじめに

第 2 回 エッセイのテーマの選択

第 3 回 テーゼステートメント

第 4 回 イントロダクション

第 5 回 ボディパラグラフ

第 6 回 アイデアをつなぐ

第 7 回 結論

第 8 回 ソースの使用： 引用

第 9 回 要約とパラフレイズ

第 10 回 引用

第 11 回 参考文献

12 回 定義

第 13 回 論証

第 14 回 剽窃

第 15 回 結論

5. 成績評価方法：第 1 回小論文 30%

最終回小論文 40%

毎週の小演習 30%

6. 教科書および参考書：教科書はない。読み物やオンライン教材を提供する。

7. 授業時間外学習：聴解、パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：高等英文解釈法

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：佐藤 元樹

コード：LB35306, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英文解釈の技法

2・授業の目的と概要：様々な形式の多様なジャンルの英文テキストを読み、英語の読解力および批判的思考力を養成する。

3. 学習の到達目標：英文を正確に読み、パラグラフの要点を特定すること、事実と意見を区別すること、情報を分類することができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Sociology - Reading 1: We all need a role model
3. Unit 1 Sociology - Reading 2: Everyday heroes
4. Unit 1 Sociology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
5. Unit 2 Behavioral Science - Reading 1: Your Guide to Generation Z
6. Unit 2 Behavioral Science - Reading 2: This is why you're addicted to your phone
7. Unit 2 Behavioral Science - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
8. Unit Test 学習事項の確認
9. Unit 3 Developmental Psychology - Reading 1: The difference between fitting in and belonging, and why it matters
10. Unit 3 Developmental Psychology - Reading 2: Life lessons I learned from my dad in 23 years
11. Unit 3 Developmental Psychology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
12. Unit 4 Science and Technology - Reading 1: Five innovative technologies that bring energy to the developing world
13. Unit 4 Science and Technology - Reading 2: This device pulls water out of desert air
14. Unit 4 Science and Technology - Reading skill / critical thinking strategy/ writing skill
15. まとめの解説と学期末試験

5. 成績評価方法：学期末試験および各 Unit の課題にもとづいて、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.

7. 授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、テキストの設問に答える。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

辞書を持参すること。

科目名：高等英文解釈法

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：佐藤 元樹

コード：LB45303, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英文解釈の技法

2. 授業の目的と概要：様々な形式の多様なジャンルの英文テキストを読み、英語の読解力および批判的思考力を養成する。

3. 学習の到達目標：英文を正確に読み、要点と細部を区別すること、対比的な考えを判別すること、著者の意図を理解すること、推測して結論を出すことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Unit 5 Nutritional Science - Reading 1: Eating well
3. Unit 5 Nutritional Science - Reading 2: A personalized nutrition company will use your DNA to tell you what to eat
4. Unit 5 Nutritional Science - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
5. Unit 6 Education- Reading 1: From student to employee
6. Unit 6 Education - Reading 2: Making my first post-college career decision
7. Unit 6 Education - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
8. Unit Test 学習事項の確認
9. Unit 7 Geology- Reading 1: Ocean discoveries
10. Unit 7 Geology - Reading 2: Alaska' s Pebble Mine
11. Unit 7 Geology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
12. Unit 8 Engineering - Reading 1: The Tacoma narrows bridge collapse and the lessons learned
13. Unit 8 Engineering - Reading 2: How to design a student project that benefits the developing world
14. Unit 8 Engineering - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
15. まとめの解説と学期末試験

5. 成績評価方法：学期末試験および各 Unit の課題にもとづいて、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.

7. 授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、テキストの設問に答える。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

辞書を持参すること。

科目名：英語論文作成法

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LB33206, **科目ナンバリング：**LHM-ENG203E, **使用言語：**English

1. 授業題目：Academic Writing in English I

2・授業の目的と概要：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn and practice the basics for: (1) common and uncommon uses of a variety of punctuation marks; (2) the correct page layout for writing paragraphs and essays; (3) sentence, paragraph, and essay structure for different essay types; and (4) strategies for pre-writing, writing, proofreading and revision.

Note that all writing in this course will essentially be collaborative as a result of input and revision advice from peers and instructor alike. In other words, only revised second drafts of writing will be accepted for evaluation (scoring). Also note that Academic Writing I is a prerequisite course for acquiring the skills needed for succeeding in Academic Writing II, which focuses on all steps and related issues in the process of research paper writing in English.

3. 学習の到達目標：As a result of completing this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
- 2) identify different types of essays and make correct writing decisions related

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Semester I Course Introduction; the Writing Process; Plagiarism
- 2) Page Layout Rules and Word Processing; Writing Email
- 3) Capitalization Rules; Parts of a Paragraph; Introduction to Assignment 1
- 4) Basic Sentence Structure; Revision (Proofreading and Editing)
- 5) Parts of an Essay; Introduction Paragraph; Attention Getters
- 6) Thesis Statements; Introduction to Assignment 2; Essay Model Analysis
- 7) Parallelism; Conclusion Paragraph; Colons and Semicolons
- 8) Writing Workshop for Assignment 2
- 9) Introduction to Assignment 3; Essay Model Analysis
- 10) Hyphens and Dashes; Cohesion
- 11) Writing Workshop for Assignment 3
- 12) Writing about a Process; Introduction to Assignment 4; Essay Model Analysis
- 13) Process Writing (continued); Audience and Tone
- 14) Writing Workshop for Assignment 3; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester I Test

5. 成績評価方法：The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) writing assignments, and (3) a semester test.

6. 教科書および参考書：Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

7. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing writing assignments according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing and redoing a series of tasks, success in this course depends on

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：英語論文作成法

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LB43204, **科目ナンバリング：**LHM-ENG203E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：Academic Writing in English II

2・授業の目的と概要：Academic Writing in English II is a continuation of Academic Writing in English I (AWEI) from the spring semester; therefore successful completion of AWEI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during the spring semester, students will focus on producing a fully documented research paper in English (8-12 substantial paragraphs in length). Students will thus systematically study the research process and learn how to present research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material. This process will also include writing an abstract (summary) and an oral presentation of research findings.

3. 学習の到達目標：As a result of taking this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
- 2) identify and evaluate potential resources of information.
- 3) select a topic, then systematical

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Class Schedule and Activities for 15 lessons

- 1) Semester II Course Introduction; the Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources; Working Bibliography
- 3) Gathering and Evaluating Source Materials
- 4) Paragraph Organization and Note-Taking
- 5) Note-Taking (continued); Quotations and Paraphrasing
- 6) Capitalization, Italics, and Quotation Marks
- 7) Model Analysis; Writing an Outline
- 8) Writing Workshop 1
- 9) Writing the First Draft; Citing Sources; Avoiding Plagiarism
- 10) Writing Workshop 2
- 11) Works Cited List; Layout for Final Draft; Evaluation Rubric
- 12) Writing Workshop 3
- 13) Abstract Writing; Presentation of Research
- 14) Research Presentations; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester II Test

5. 成績評価方法：The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) research paper and abstract; (3) research presentation; and (4) semester test.

6. 教科書および参考書：Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

Note that the Style Guide of the Modern La

7. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing the various research steps according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing a series of tasks, success in this course depends on consi

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：ギリシャ語

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB31304, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：アリストテレス『形而上学』第 12 巻講読

2・授業の目的と概要：アリストテレスの『形而上学』は、アリストテレス自身の哲学的方法や概念が集約されている非常に重要なテキストです。またこのテキストは、西洋哲学の根本学としての形而上学の基本テキストであり、学問とは何であるか、存在とは何であるかについての古代ギリシア的な理解を与えてくれます。実際に古代ギリシア語の原典で精読することを通じて、哲学や学問とはそもそも何であるか、ということについての理解を深めることが可能です。

3. 学習の到達目標：・アリストテレスの哲学的テキストを自力で訳すことが出来るようになる。

・ギリシア語特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる。

・辞書・文法書を活用することが出来るようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

・第 1 回：イントロダクション（演習の内容と方法、について）

・第 2 回：第 1 巻読解 1～30 行

・第 3 回：第 1 巻読解 31～60 行

・第 4 回：第 1 巻読解 61～90 行

・第 5 回：第 1 巻読解 91～120 行

・第 6 回：第 1 巻読解 121～150 行

・第 7 回：第 1 巻読解 150～180 行

・第 8 回：第 1 巻読解 181～210 行

・第 9 回：第 1 巻読解 210～250 行

・第 10 回：第 1 巻読解 251～290 行

・第 11 回：第 1 巻読解 291～330 行

・第 12 回：第 1 巻読解 331～370 行

・第 13 回：第 1 巻読解 371～410 行

・第 14 回：第 1 巻読解 411～450 行

・第 15 回：全体のまとめ

5. 成績評価方法：出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

6. 教科書および参考書：教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。

辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。

7. 授業時間外学習：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ギリシャ語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：今井 誠二

コード：LB33405, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（1）

2・授業の目的と概要：古典ギリシャ語のアルファベットの学習から始めて、名詞、形容詞、動詞等の必要最小限の文法事項を習得する。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については、資料などを補いつつ解説する。

3. 学習の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

“文字と発音、アクセント

第1・第2変化名詞及び形容詞、定冠詞

ω 動詞：直説法能動相現在及び未来

ω 動詞：直説法能動相未完了過去及びアオリスト、不定詞を用いた間接話法

ω 動詞；直説法能動相第2アオリスト、結果文、時の表現

前接辞と後接辞、疑問代名詞と不定代名詞、動詞 ε ι μ ι と φ η μ ι、所有の与格

第3変化名詞：子音幹、限定の対格及び与格

第3変化名詞、母音融合を行う第1・第2変化形容詞

第3変化名詞：母音幹、関係代名詞

指示代名詞、強意代名詞 α υ τ ο ς

形容詞および副詞の比較、η δ ι ω ν の変化

母音融合動詞

流音・鼻音幹動詞の未来、人称代名詞

- υ ς - ε ι α - υ 型および - η ς - ε ς 型の形容詞

π α ς, μ ε γ α ς, π ο λ υ ς の変化

μ ι 動詞：ι σ τ η μ ι と δ ι δ ω μ ι の直接法能動相現在・未完了過去・アオリスト

μ ι 動詞：τ ι θ η μ ι, ι η μ ι, ε ι μ ι, δ ε κ ν υ μ ι”

5. 成績評価方法：出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

6. 教科書および参考書：水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

7. 授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ギリシャ語

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB41305, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：アリストテレス『形而上学』第 12 巻講読

2・授業の目的と概要：アリストテレスの『形而上学』は、アリストテレス自身の哲学的方法や概念が集約されている非常に重要なテキストです。またこのテキストは、西洋哲学の根本学としての形而上学の基本テキストであり、学問とは何であるか、存在とは何であるかについての古代ギリシア的な理解を与えてくれます。実際に古代ギリシア語の原典で精読することを通じて、哲学や学問とはそもそも何であるか、ということについての理解を深めることが可能です。

3. 学習の到達目標：・アリストテレスの哲学的テキストを自力で訳すことが出来るようになる。

・ギリシア語特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる。

・辞書・文法書を活用することが出来るようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

・第 1 回：イントロダクション（演習の内容と方法、について）

・第 2 回：第 1 巻読解 1～30 行

・第 3 回：第 1 巻読解 31～60 行

・第 4 回：第 1 巻読解 61～90 行

・第 5 回：第 1 巻読解 91～120 行

・第 6 回：第 1 巻読解 121～150 行

・第 7 回：第 1 巻読解 150～180 行

・第 8 回：第 1 巻読解 181～210 行

・第 9 回：第 1 巻読解 210～250 行

・第 10 回：第 1 巻読解 251～290 行

・第 11 回：第 1 巻読解 291～330 行

・第 12 回：第 1 巻読解 331～370 行

・第 13 回：第 1 巻読解 371～410 行

・第 14 回：第 1 巻読解 411～450 行

・第 15 回：全体のまとめ

5. 成績評価方法：出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

6. 教科書および参考書：教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。

辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。

7. 授業時間外学習：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ギリシャ語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：今井 誠二

コード：LB43407, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（2）

2・授業の目的と概要：前期に引き続き、古典ギリシャ語の文法の初歩の学びを深める。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

3. 学習の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

ω 動詞の能動相現在・未来・第2アオリストの分詞、分詞の用法

ω 動詞の能動相アオリストの分詞、μ ι 動詞の能動相現在および第2アオリストの分詞

接続法能動相現在およびアオリスト、主文における接続法の用法、接続法を用いた条件文

希求法能動相現在・未来・アオリスト、主文における希求法の用法、目的文

希求法を用いた条件文、ο τ ι, ως によって導入される間接話法、話法転換時の動詞の法の変化

直接法中・受動相現在、直接法中・受動相未来、能動相欠如動詞、危惧・恐怖を表す文

直接法中・受動相未完了過去、直接法中・受動相第2アオリスト、再帰代名詞、所有代名詞、配慮・努力を表す文

直接法中・受動相アオリスト、事実と反する仮定の条件文、過去の仮定を表す文

接続法中・受動相現在、接続法中・受動相アオリスト、ε ως, π ρ ι ν の用法

希求法中・受動相現在、希求法中・受動相アオリスト・未来

受動相アオリストおよび未来、行為者を表す υ π ο +属格、手段・方法の与格

能動相完了・過去完了・未来完了

中・受動相完了、過去完了、未来完了、行為者の与格

命令法：ω 動詞

命令法：μ ι 動詞

μ ι 動詞型の変化をする第2アオリスト、動形容詞、動詞の腫瘍部分

数詞

5. 成績評価方法：出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

6. 教科書および参考書：水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

7. 授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ラテン語

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：荻原 理

コード：LB32309, **科目ナンバリング：**LHM-OFL202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ラテン語原典講読

2・授業の目的と概要： 語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます。テキストの音読もします。語形変化の練習に時間を取ります。気軽に質問してください。そうしてラテン語に馴れていきます。

テキストは、参加者の希望・関心を訊きながら教員が選びます。ジャンルの異なる複数のテキストを読むことになる可能性が大了。

3. 学習の到達目標：授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

ラテン語に親しむ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

最初の数回分のテキスト（テキスト 1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト 2 以降）。

第 1 回：イントロ

テキスト 1 たとえば 1-3 行

第 2 回：テキスト 1 たとえば 4-7 行

第 3 回：テキスト 1 たとえば 8-12 行

第 4 回：テキスト 2 たとえば 1-5 行

第 5 回：テキスト 2 たとえば 6-10 行

第 6 回：テキスト 2 たとえば 11-15 行

第 7 回：テキスト 2 たとえば 16-20 行

第 8 回：テキスト 2 たとえば 21-26 行

第 9 回：テキスト 2 たとえば 27-32 行

第 10 回：テキスト 3 たとえば 1-6 行

第 11 回：テキスト 3 たとえば 7-12 行

第 12 回：テキスト 3 たとえば 12-18 行

第 13 回：テキスト 3 たとえば 19-24 行

第 14 回：テキスト 3 たとえば 25-32 行

第 15 回：テキスト 3 たとえば 33-38 行

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる

6. 教科書および参考書：松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手して下さい。読むテキストはオンラインで提供します。

7. 授業時間外学習：授業で学んだ文章の復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：宮崎 正美

コード：LB35307, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ラテン語文法入門・文法基礎

2・授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の文法の全体像をつかんだ上で、文法の基礎的事項を習得することを目的とする。授業は、学ぶ上での重要な点や注意すべき点を指摘しながら解説する。

3. 学習の到達目標：ラテン語文法理解の基礎となる事項（動詞・名詞・形容詞・代名詞その他）を修得し、どのような特徴をもった言語であるかを学ぶこと。
さらに格言など簡単なラテン語文章を読解できるようになることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

※この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください（クラスコードは後日お知らせします）。

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

1. イントロダクション
2. アルファベット、発音、音節・アクセント規則
3. 動詞の基礎（1） 人称語尾、4 活用型とその判別法、sum 動詞
4. 動詞の基礎（2） 現在幹、命令法
5. 名詞の基礎（1） 性・数・格、5 変化型とその判別法、第 1 変化
6. 名詞の基礎（2） 第 2 変化、第 3 変化① i 幹
7. 名詞の基礎（3） 第 3 変化② 子音幹、前置詞（対格、奪格）
8. 名詞の基礎（4） 属格の用法、与格の用法、第 4 変化、第 5 変化名詞の基礎
9. 形容詞（1） 性・数・格の一致、第 1・第 2 変化型
10. 形容詞（2） 第 3 変化型
11. 形容詞（3） 比較級、最上級、副詞、数詞
12. 代名詞（1） 代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞
13. 代名詞（2） 指示代名詞・形容詞①
14. 代名詞（3） 指示代名詞・形容詞②、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞
15. 代名詞（4） 関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞

5. 成績評価方法：出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（3 分の 2 の出席を単位取得の最低条件とし、残り 3 分の 1 を全体の 40% に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は 平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

6. 教科書および参考書：教科書：なし。教員が作成した PDF 資料を、Google Classroom の中で提供する。

参考書：水谷智洋 『羅和辞典(改定版)』研究社、2009 年。

7. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

連絡先：paul-m@tohoku.ac.jp

(◎を@に置き換えてください)

辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい。

教科書としてプリントを配付する。

履修後続いてラテン語 II の履修が望まれる。

科目名：ラテン語

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：荻原 理

コード：LB42309, **科目ナンバリング：**LHM-OFL202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ラテン語原典講読

2・授業の目的と概要： 語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます。テキストの音読もします。語形変化の練習に時間を取ります。気軽に質問してください。そうしてラテン語に馴れていきます。

テキストは、参加者の希望・関心を訊きながら教員が選びます。ジャンルの異なる複数のテキストを読むことになる可能性が大了。

3. 学習の到達目標：授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

ラテン語に親しむ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

最初の数回分のテキスト（テキスト 1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト 2 以降）。

第 1 回：イントロ

テキスト 1 たとえば 1-3 行

第 2 回：テキスト 1 たとえば 4-7 行

第 3 回：テキスト 1 たとえば 8-12 行

第 4 回：テキスト 2 たとえば 1-5 行

第 5 回：テキスト 2 たとえば 6-10 行

第 6 回：テキスト 2 たとえば 11-15 行

第 7 回：テキスト 2 たとえば 16-20 行

第 8 回：テキスト 2 たとえば 21-26 行

第 9 回：テキスト 2 たとえば 27-32 行

第 10 回：テキスト 3 たとえば 1-6 行

第 11 回：テキスト 3 たとえば 7-12 行

第 12 回：テキスト 3 たとえば 12-18 行

第 13 回：テキスト 3 たとえば 19-24 行

第 14 回：テキスト 3 たとえば 25-32 行

第 15 回：テキスト 3 たとえば 33-38 行

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる

6. 教科書および参考書：松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手して下さい。読むテキストはオンラインで提供します。

7. 授業時間外学習：授業で学んだ文章の復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：宮崎 正美

コード：LB45304, 科目ナンバリング：LHM-0FL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ラテン語文法および読解

2・授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の基礎的文法の仕上げをすることを目的とする。動詞の基本（直説法、現在、能動態）に基づく発展的文法を習得し、ラテン語の文法体系を総合的に理解できるようにする。さらに総合的な読解力のために、さまざまな時代の文献を対象とし、古文書学やキリスト教に関する基本的知識をもとにして、読解する。それにより、学術的研究にラテン語の果たす役割の一端を実感できるであろう。

3. 学習の到達目標：（1）ラテン語文法の総合的な理解を習得すること。
（2）ラテン語原典にふれて読解力がつくようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 インTRODakション 動詞の態・時制・法の概略、現在幹を基にした不定法現在、命令法
- 第2回 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、未完了過去（直説法能動態）、未来（直説法能動態）、sum の未完了過去、未来
- 第3回 受動態人称語尾、形式受動態語尾（デポネンティア動詞）、命令法受動態
- 第4回 完了（直説法能動態）、完了幹、過去完了（直説法能動態）、未来完了（直説法能動態）
- 第5回 分詞（1） 分詞の種類と性格、性・数・格、現在分詞
- 第6回 分詞（2） 完了分詞、未来分詞、目的分詞
- 第7回 非人称動詞、不定法（現在、完了、未来）、動名詞
- 第8回 動形容詞、奪格別句
- 第9回 接続法（1） 接続法現在（能動態）、単文での用法、接続法の基本用法
- 第10回 接続法（2） 接続法現在（受動態）、接続法未完了過去（能動態・受動態）、接続法完了（能動態・受動態）、接続法過去完了（能動態・受動態）、
- 第11回 接続法（3） 時制の対応関係、間接話法（疑問文、命令文）、目的文
- 第12回 接続法（4） 程度文・結果文、条件文・譲歩文
- 第13回 原典講読①
- 第14回 原典講読②
- 第15回 原典講読③

5. 成績評価方法：出席日数が総授業数の2/3以上の学生が評価の対象になります。
出席状況（3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

6. 教科書および参考書：教科書：なし。教員が作成したPDF資料を、Google Classroomの中で提供する。
参考書：水谷智洋 『羅和辞典(改定版)』研究社、2009年。

7. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。
テキストの練習問題を利用して、授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

連絡先：paul-m@tohoku.ac.jp

（◎を@に置き換えてください）

辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい。

科目名：サンスクリット語

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：渡辺 亮

コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-0FL203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習 I

2・授業の目的と概要：ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして平易なサンスクリット文の読解演習を行い、サンスクリット語文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記のほか、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。インド古典文学の理解のため、必要に応じて古代インド文化の概説を行う。

3. 学習の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 『ナラ王物語』第1章（ナラ王とダマヤンティーの生い立ち）1－4
3. 『ナラ王物語』第1章 5－8
4. 『ナラ王物語』第1章 9－12
5. 『ナラ王物語』第1章 13－16
6. 『ナラ王物語』第1章 17－21
7. 『ナラ王物語』第1章 22－26
8. 『ナラ王物語』第1章 27－32
9. 『ナラ王物語』第2章（婿選びの御触れ）1－6
10. 『ナラ王物語』第2章 7－13
11. 『ナラ王物語』第2章 14－20
12. 『ナラ王物語』第2章 21－28
13. 『ナラ王物語』第2章 29－30, 第3章（ナラ王とダマヤンティーの対話）1－6
14. 『ナラ王物語』第3章 7－14
15. 『ナラ王物語』第3章 15－22

5. 成績評価方法：授業への出席状況と受講態度（40%）、授業内容の理解度（40%）および予習（20%）

6. 教科書および参考書：C. R. Lanman: A Sanskrit Reader, W. D. Whitney: Sanskrit Grammar

7. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

サンスクリット語初級の知識を有すること。冬セメスターのサンスクリット語（サンスクリット語基礎演習 II）と併せて受講するのが望ましい。

科目名：サンスクリット語

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：渡辺 亮

コード：LB44303, 科目ナンバリング：LHM-0FL203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習 II

2・授業の目的と概要：前期に引き続き、ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく、ホイットニーの文法書およびシュパイエルの統語法書を適宜参照しながら読み進める。

3. 学習の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イン트로ダクション
2. 『ナラ王物語』第3章 23－25, 第4章（ナラ王とダマヤンティーの対話）1－5
3. 『ナラ王物語』第4章 6－13
4. 『ナラ王物語』第4章 14－22
5. 『ナラ王物語』第4章 23－31
6. 『ナラ王物語』第5章（婿選びの式）1－9
7. 『ナラ王物語』第5章 10－18
8. 『ナラ王物語』第5章 19－27
9. 『ナラ王物語』第5章 28－36
10. 『ナラ王物語』第5章 37－46
11. 『有益な教え（ヒトーバデーシャ）』イントロダクション, プロローグ
12. 『有益な教え』プロローグ
13. 『有益な教え』プロローグ
14. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」
15. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」

5. 成績評価方法：授業への出席状況と受講態度（40%）、授業内容の理解度（40%）および予習（20%）

6. 教科書および参考書：C. R. Lanman: A Sanskrit Reader, W. D. Whitney: Sanskrit Grammar, J. S. Speijer: Sanskrit Syntax

7. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

サンスクリット語初級の知識を有すること。夏セメスターのサンスクリット語（サンスクリット語基礎演習 I）と併せて受講するのが望ましい。

科目名：中国語

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：張 佩茹

コード：LB33207, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語／中国語

1. 授業題目：中国語中級作文

2・授業の目的と概要：初級クラスで学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの作文力を身につけることを目的とする。基礎文型の復習をしながら、身近な話題で中国語の作文を書く練習をする。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

3. 学習の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語の文章で表現することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

テーマに沿って、作文練習をする。

＜進度予定＞

第1回 ガイダンス、“奇异的影”について

第2回 “自立”について

第3回 “瞻瞻的梦”について

第4回 “听故事”について

第5回 “办公室”について

第6回 “种花”について

第7回 “你给我削瓜，我给你打扇”について

第8回 “小旅行”について

第9回 “小母亲”について

第10回 “似爱之虐”について

第11回 “弟弟睡了”について

第12回 “水光”について

第13回 “小树”について

第14回 “夕阳”について

第15回 期末まとめ

5. 成績評価方法：平常点：100%（主に課題）

6. 教科書および参考書：プリント配布

7. 授業時間外学習：予習：テーマに関連する中国語の作文を読む。使ってみたい単語の用法を事前に調べておく。

復習：間違ったところを見直す。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：中国語

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：張 佩茹

コード：LB43205, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語／中国語

1. 授業題目：中国語中級作文

2・授業の目的と概要：初級クラスで学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの作文力を身につけることを目的とする。基礎文型の復習をしながら、身近な話題で中国語の作文を書く練習をする。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

3. 学習の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語の文章で表現することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

テーマに沿って、作文練習をする。

＜進度予定＞

第1回 ガイダンス、“儿童不知春，问草何处绿”について

第2回 “留春”について

第3回 “第三张笺”について

第4回 “穿了爸爸的衣服”について

第5回 “研究”について

第6回 “教育”について

第7回 “瓶里、盆里、地里的花”について

第8回 “爸爸不在家的时候”について

第9回 “拉黄包车”について

第10回 “清明”について

第11回 “似爱之虐”について

第12回 “进步”について

第13回 “战争的起源”について

第14回 “买得一枝春”について

第15回 期末まとめ

5. 成績評価方法：平常点：100%（主に課題）

6. 教科書および参考書：プリント配布

7. 授業時間外学習：予習：テーマに関連する中国語の作文を読む。使ってみたい単語の用法を事前に調べておく。

復習：間違ったところを見直す。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：朝鮮語

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：権 来順

コード：LB33208, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：韓国語入門

2・授業の目的と概要：韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。

3. 学習の到達目標：学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション：授業の全般的説明、学修方法などについてガイダンスを行う

第2回：韓国語の基本母音と子音に関して、6 個の基本母音と 5 個の子音【平音】の組み合わせ

第3回：韓国語の基本母音と子音に関して、4 個の基本母音と 5 個の子音【平音】の組み合わせ

第4回：韓国語の基本母音と子音に関して、10 個の基本母音と 4 個の子音【激音】の組み合わせ

第5回：韓国語の基本母音と子音に関して、基本母音 10 個と 5 個の子音【濃音】の組み合わせ

第6回：1 1 個の複合母音の学習

第7回：一つ文字終声(パッチム)→連音化、流音化、有声音化の学習

第8回：二つ文字終声(パッチム)→激音化、濃音化、鼻音化の学習、日本語のハングル(韓国語)表記練習

第9回：助詞「～は」と「～です」の表現→「あなたはどこの国の人ですか」など、相手の国籍の尋ねや答え方、自己紹介

第10回：助詞「～は」を用いて「名詞＋です」、「名詞＋ですか」、「名詞＋ではない」の文型を練習

第11回：指示表現と所有表現の学習

第12回：助詞「～を」と動詞の丁寧表現、「～ます、～ています」の学習

第13回：助詞「～に、～も」を用いて位置名詞を学習場所や方向など、位置を表す表現を学び、道や場所を尋ねる練習をする

第14回：助詞「～で」、動詞の否定形を練習

第15回：総まとめと試験

5. 成績評価方法：期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。

6. 教科書および参考書：鄭世桓、権来順、金永昊、呉正培、張基善 著『パルン韓国語』 朝日出版社、参考資料のプリント配布

7. 授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。/Students to prepare a vocabulary book comprising new vocabulary and words, for reviewing and use in future classes the new vocabulary learnt.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：朝鮮語

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：権 来順

コード：LB43206, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：初級韓国語

2. 授業の目的と概要：韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。

3. 学習の到達目標：日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：現在形の用言活用Ⅰ（規則活用）

第3回：現在形の用言活用Ⅱ（規則活用）

第4回：現在形の用言活用（変則活用）

第5回：固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現

第6回：過去形の用言活用Ⅰ（規則活用）

第7回：過去形の用言活用Ⅱ（規則活用）

第8回：過去形の用言活用（変則活用）

第9回：願望を表す表現

第10回：意志を表す表現

第11回：目的を表す表現

第12回：格式体敬語表現

第13回：非格式体敬語表現

第14回：意向・意見・勧誘の表現

第15回：総まとめと試験

5. 成績評価方法：期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。

6. 教科書および参考書：鄭世桓、権来順、金永昊、呉正培、張基善 著『パルン韓国語』 朝日出版社、参考資料のプリント配布

7. 授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。/
Students to prepare a vocabulary book comprising new vocabulary and words, for reviewing and use in future classes the new vocabulary learnt.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

基本文字の学習を終えて、ハングル(韓国語)文字が読めれば履修可能。

科目名：イタリア語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB33406, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語 (イタリア語)

1. 授業題目：イタリア語上級

2・授業の目的と概要：文法の復習を一層広げながら、イタリア語の積極的な使い方、授業時間以外の私立的な使用を支配する方法や刺激を与えること。ますます複雑な会話や作文によって、自分の趣味、意見、研究的な興味もイタリア語で表現できるようになること。

3. 学習の到達目標：学んできたイタリア語文法を駆使し、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、音楽と映画によってもイタリア文化に関しても学んでいく。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- | | |
|------------------------|--|
| 1. 等級テスト | Assesment test |
| 2. 会話と読解の練習。 | Conversation and reading exercises |
| 3. 直接法未来形。 | Future indicative tense |
| 4. 進行動詞と gerundio の使用 | The use of gerundio |
| 5. 会話と読解の練習。 | Conversation and reading |
| 6. 曲の聞き取り、歌詞分析 | Listening to a song and analysing its lyrics |
| 7. 翻訳の小テスト | Translation minitest |
| 8. passato remoto の過去形 | Passato remoto tense |
| 9. 会話と読解の練習。 | Conversation and readng |
| 10. 動詞文法のまとめ | Reharsal of verbs |
| 11. 作文・自分の趣味 | Writing exercise: my interests |
| 12. イタリア語での映画 | An Italian movie |
| 13. 映画でまとめた文法・単語。 | Analysis of the movie / grammar and vocabulary |
| 14. 聞き取り練習とテストの準備。 | Listening exercise, preparation to final test |
| 期末テストとまとめ。 | Final test |

5. 成績評価方法：クラスでの積極的な参加、学期末試験

6. 教科書および参考書：イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》長神 悟

7. 授業時間外学習：宿題・言語アプリ

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

無

9. その他：

無

科目名：イタリア語

曜日・講時：木曜3限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB34304, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語 (イタリア語)

1. 授業題目：イタリア語 I

2. 授業の目的と概要：授業は初心者向けのイタリア語への入門です。イタリア語の文法、日常的な単語、簡単な会話等を学んで、生徒さんは基礎的なイタリア語の読解や会話ができるようになります。

3. 学習の到達目標：イタリア語文法の主な構造を理解して、読解・簡単な作文・会話でそれを使用する目標です。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 紹介、イタリア語の発音とアルファベット | Introduction, the pronunciation of Italian and its alphabet |
| 2. 冠詞、名詞、形容詞 | Articles, nouns, adjectives |
| 3. essere と avere、挨拶 | Essere (to be) and Avere (to have), how to greet |
| 4. 規則正しい動詞 | The regular verbs |
| 5. 単語の基礎をゲームで学ぶ | The basis of lexicon: learning with games |
| 6. 前置詞 I di, a, da, in | Prepositions: di, a, da, in |
| 7. 前置詞 II con, su, per, tra, fra | Prepositions: con, su, per, tra, fra |
| 8. 自分の趣味：作文とロールプレイ | "My hobbies: writing and roleplay" |
| 9. 月、曜日、時 | Months, weekdays, hours |
| 10. 直接代名詞 | Direct pronouns |
| 11. 間接代名詞 | Indirect pronouns |
| 12. 再起動詞 | Reflexive verbs |
| 13. 復習 | Reharsal |
| 14. 作文の練習。 | Writing test and mock exam |
| 15. 期末テストとまとめ。 | Final test |

5. 成績評価方法：クラスでの積極的な参加、学期末試験

6. 教科書および参考書：イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》長神 悟

7. 授業時間外学習：宿題・言語アプリ

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

無

9. その他：

無

科目名：イタリア語

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB34401, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語 (イタリア語)

1. 授業題目：イタリア語中級

2・授業の目的と概要：今まで会得した文法と会話の基礎にさらに建てながら、新しい文法を紹介し、単語を広げる目的である。動詞の文法で進歩しながら、イタリア文化や現代について会話する、そして自分の趣味や大学専門に関する会話や作文させる。

3. 学習の到達目標：以前の基礎を強化し、自己表現の上に、イタリア語の勉強を自分の興味や趣味に繋がれる方法を提案する目的とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 紹介、復習テスト | Introduction, rehearsal test |
| 2. 直接法近過去 | The italian past: passato prossimo |
| 3. 旅行の単語・方向と前置詞 | How to travel: dialogue and vocabulary |
| 4. Potere, volere, dovere | Potere, volere, dovere |
| 5. 自分の趣味・読解と作文 | My hobbies - reading |
| 6. 自分の趣味・読解と作文 | My hobbies - writing |
| 7. 非人称動詞。 | Impersonal forms |
| 9. Volere と Vorrei (条件法現在) | Conditional mode |
| 10. 会話の練習 | Conversation exercises |
| 11. 近過去と半過去 | Imperfect and passato prossimo |
| 12. 小テストと会話の練習。 | Mini test, conversation exercises |
| 13. 近過去と半過去 作文 | Imperfect and passato prossimo: writing |
| 14. 模擬試験 | Exam preparation |
| 15. 期末テストとまとめ。 | Final exam |

5. 成績評価方法：クラスでの積極的な参加、学期末試験

6. 教科書および参考書：イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト

7. 授業時間外学習：宿題・言語アプリ

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

無

9. その他：

無

科目名：イタリア語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB43408, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語 (イタリア語)

1. 授業題目：イタリア語上級

2・授業の目的と概要：文法の復習を一層広げながら、イタリア語の積極的な使い方、授業時間以外の私立的な使用を支配する方法や刺激を与えること。ますます複雑な会話や作文によって、自分の趣味、意見、研究的な興味もイタリア語で表現できるようになること。

3. 学習の到達目標：学んできたイタリア語文法を駆使し、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、音楽と映画によってもイタリア文化に関しても学んでいく。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- | | |
|------------------------|--|
| 1. 等級テスト | Assesment test |
| 2. 会話と読解の練習。 | Conversation and reading exercises |
| 3. 直接法未来形。 | Future indicative tense |
| 4. 進行動詞と gerundio の使用 | The use of gerundio |
| 5. 会話と読解の練習。 | Conversation and reading |
| 6. 曲の聞き取り、歌詞分析 | Listening to a song and analysing its lyrics |
| 7. 翻訳の小テスト | Translation minitest |
| 8. passato remoto の過去形 | Passato remoto tense |
| 9. 会話と読解の練習。 | Conversation and readng |
| 10. 動詞文法のまとめ | Reharsal of verbs |
| 11. 作文・自分の趣味 | Writing exercise: my interests |
| 12. イタリア語での映画 | An Italian movie |
| 13. 映画でまとめた文法・単語。 | Analysis of the movie / grammar and vocabulary |
| 14. 聞き取り練習とテストの準備。 | Listening exercise, preparation to final test |
| 期末テストとまとめ。 | Final test |

5. 成績評価方法：クラスでの積極的な参加、学期末試験

6. 教科書および参考書：イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》長神 悟

7. 授業時間外学習：宿題・言語アプリ

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

無

9. その他：

無

科目名：イタリア語

曜日・講時：木曜3限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB44304, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語 (イタリア語)

1. 授業題目：イタリア語 I

2. 授業の目的と概要：授業は初心者向けのイタリア語への入門です。イタリア語の文法、日常的な単語、簡単な会話等を学んで、生徒さんは基礎的なイタリア語の読解や会話ができるようになります。

3. 学習の到達目標：イタリア語文法の主な構造を理解して、読解・簡単な作文・会話でそれを使用する目標です。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 紹介、イタリア語の発音とアルファベット | Introduction, the pronunciation of Italian and its alphabet |
| 2. 冠詞、名詞、形容詞 | Articles, nouns, adjectives |
| 3. essere と avere、挨拶 | Essere (to be) and Avere (to have), how to greet |
| 4. 規則正しい動詞 | The regular verbs |
| 5. 単語の基礎をゲームで学ぶ | The basis of lexicon: learning with games |
| 6. 前置詞 I di, a, da, in | Prepositions: di, a, da, in |
| 7. 前置詞 II con, su, per, tra, fra | Prepositions: con, su, per, tra, fra |
| 8. 自分の趣味：作文とロールプレイ | "My hobbies: writing and roleplay" |
| 9. 月、曜日、時 | Months, weekdays, hours |
| 10. 直接代名詞 | Direct pronouns |
| 11. 間接代名詞 | Indirect pronouns |
| 12. 再起動詞 | Reflexive verbs |
| 13. 復習 | Reharsal |
| 14. 作文の練習。 | Writing test and mock exam |
| 15. 期末テストとまとめ。 | Final test |

5. 成績評価方法：クラスでの積極的な参加、学期末試験

6. 教科書および参考書：イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》長神 悟

7. 授業時間外学習：宿題・言語アプリ

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

無

9. その他：

無

科目名：イタリア語

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB44401, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語 (イタリア語)

1. 授業題目：イタリア語中級

2・授業の目的と概要：今まで会得した文法と会話の基礎にさらに建てながら、新しい文法を紹介し、単語を広げる目的である。動詞の文法で進歩しながら、イタリア文化や現代について会話する、そして自分の趣味や大学専門に関する会話や作文させる。

3. 学習の到達目標：以前の基礎を強化し、自己表現の上に、イタリア語の勉強を自分の興味や趣味に繋がれる方法を提案する目的とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 紹介、復習テスト | Introduction, rehearsal test |
| 2. 直接法近過去 | The italian past: passato prossimo |
| 3. 旅行の単語・方向と前置詞 | How to travel: dialogue and vocabulary |
| 4. Potere, volere, dovere | Potere, volere, dovere |
| 5. 自分の趣味・読解と作文 | My hobbies - reading |
| 6. 自分の趣味・読解と作文 | My hobbies - writing |
| 7. 非人称動詞。 | Impersonal forms |
| 9. Volere と Vorrei (条件法現在) | Conditional mode |
| 10. 会話の練習 | Conversation exercises |
| 11. 近過去と半過去 | Imperfect and passato prossimo |
| 12. 小テストと会話の練習。 | Mini test, conversation exercises |
| 13. 近過去と半過去 作文 | Imperfect and passato prossimo: writing |
| 14. 模擬試験 | Exam preparation |
| 15. 期末テストとまとめ。 | Final exam |

5. 成績評価方法：クラスでの積極的な参加、学期末試験

6. 教科書および参考書：イタリア語の ABC[改訂版]《CD 付》 長神 悟、プリントアウト

7. 授業時間外学習：宿題・言語アプリ

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

無

9. その他：

無

科目名：専門中国語

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：張 佩茹

コード：LB32310, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語／中国語

1. 授業題目：中級中国語読解

2・授業の目的と概要：この授業では、日中の文化や習慣などの相違点についてのエッセイを精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知識を深める。

3. 学習の到達目標：現代中国語のエッセイを正確に読み解き、日中の文化の違いについて具体例を取り上げながら説明できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

受講生が事前に指定されたエッセイの発音や語彙などを調べ、内容を読んでおく。授業では内容理解度の確認をし、関連することについて話し合う。

＜進度予定＞

第1回 ガイダンス、打招呼

第2回 老朋友

第3回 对姓名的钟爱

第4回 礼物的奥秘

第5回 “这是特意为你买的！”

第6回 “你不饿吗？”

第7回 “辛苦了”

第8回 脱大衣的礼节

第9回 忌讳

第10回 白纸黑字

第11回 对钩儿 “✓”

第12回 东南西北

第13回 怎么区别

第14回 “いただきます” 应该说怎么说？

第15回 期末試験

5. 成績評価方法：課題：40%

期末試験：60%

6. 教科書および参考書：『小点心—あつさり味の日中文化論—』陳淑梅著、2005年、NHK出版。

7. 授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所を読んでおく。あわせて音読の練習もする。
復習：確認問題で間違えた箇所を復習し、正確な理解を目指す。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

9. その他：

科目名：専門中国語

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：張 佩茹

コード：LB42310, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語／中国語

1. 授業題目：中級中国語読解

2・授業の目的と概要：この授業では、日中の文化や習慣などの相違点についてのエッセイを精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知識を深める。

3. 学習の到達目標：現代中国語のエッセイを正確に読み解き、日中の文化の違いについて具体例を取り上げながら説明できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

受講生が事前に指定されたエッセイの発音や語彙などを調べ、内容を読んでおく。授業では内容理解度の確認をし、関連することについて話し合う。

＜進度予定＞

第1回 ガイダンス、应该怎么应答？

第2回 客套话

第3回 凉饭与热饭

第4回 饺子

第5回 凉拌西红柿

第6回 淘米

第7回 早点

第8回 鱼刺儿应该放在哪儿？

第9回 被窝

第10回 四二一现象

第11回 起名字的学问

第12回 儿童票

第13回 高考

第14回 身份证

第15回 期末試験

5. 成績評価方法：課題：40%

期末試験：60%

6. 教科書および参考書：『小点心—あつさり味の日中文化論—』陳淑梅著、2005年、NHK出版。

7. 授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所を読んでおく。あわせて音読の練習もする。
復習：確認問題で間違えた箇所を復習し、正確な理解を目指す。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：専門ドイツ語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：松崎 裕人

コード：LB43409, 科目ナンバリング：LHM-GER201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底

2・授業の目的と概要：ドイツ語散文を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。
併せて、ドイツ語辞典や補助教材の使用法に習熟する。
その作業を通して、ドイツ語基礎を確かなものとする。

3. 学習の到達目標：中級ドイツ語の文献を読解することができる。
独和辞典や学習独事典・特殊事典を効果的に使うことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 講読 (1)
- 3 講読 (2) およびビューハークンデについて
- 4 講読 (3)
- 5 講読 (4)
- 6 講読 (5) および独辞典の活用
- 7 講読 (6)
- 8 講読 (7) とまとめ (1)
- 9 講読 (8)
- 10 講読 (9) および事典の活用
- 11 講読 (10)
- 12 講読 (11)
- 13 講読 (12) およびランデスクンデについて
- 14 講読 (13)
- 15 講読 (14) とまとめ (2)

5. 成績評価方法：小テスト（不規則動詞の単語テスト）12 回（50%）、授業での発表（50%）

6. 教科書および参考書：テキスト：

Arthur Schnitzler: Bekenntnis. (1904)
(プリント配布)

その他のテキストや参考文献については適宜、追加・紹介します。

7. 授業時間外学習：毎回、テキスト 1 頁ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：漢文講読

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：田島 花野、矢田 尚子

コード：LB31408, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：漢文訓読入門

2・授業の目的と概要：この講義では、漢文の構造を体系的に理解し、漢文の読解力を向上させるために必要な文法に関する知識を習得することを目的とし、文型・句形・送り仮名などの性格、それら相互の関係、及び実際の用いられ方を学ぶ。

3. 学習の到達目標：受講生は本講義を通して、教育現場や専門分野に応用し得る漢文訓読の基礎的な知識を習得できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 唐代伝奇
- 第3回 唐代伝奇
- 第4回 唐代伝奇
- 第5回 唐代伝奇
- 第6回 唐代伝奇
- 第7回 唐代伝奇
- 第8回 唐代伝奇
- 第9回 唐代伝奇
- 第10回 唐代伝奇
- 第11回 唐代伝奇
- 第12回 唐代伝奇
- 第13回 唐代伝奇
- 第14回 唐代伝奇
- 第15回 まとめ、期末試験

5. 成績評価方法：出席状況（50%）、期末試験（50%）

6. 教科書および参考書：〈教科書〉『傳奇小説』漢文資料編集會議編、大修館書店、1971 年

7. 授業時間外学習：指定したテキストの授業当日の該当箇所を予習してくること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業には辞書を持参すること。

オフィスアワーは中国語学中国文学研究室（619）で毎週月曜日 14：10～14：40 とする。

科目名：漢文講読

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：田島 花野、矢田 尚子

コード：LB41405, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：漢文訓読入門

2・授業の目的と概要：この講義では、漢文の構造を体系的に理解し、漢文の読解力を向上させるために必要な文法に関する知識を習得することを目的とし、文型・句形・送り仮名などの性格、それら相互の関係、及び実際の用いられ方を学ぶ。

3. 学習の到達目標：受講生は本講義を通して、教育現場や専門分野に応用し得る漢文訓読の基礎的な知識を習得できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 唐代伝奇
- 第3回 唐代伝奇
- 第4回 唐代伝奇
- 第5回 唐代伝奇
- 第6回 唐代伝奇
- 第7回 唐代伝奇
- 第8回 唐代伝奇
- 第9回 唐代伝奇
- 第10回 唐代伝奇
- 第11回 唐代伝奇
- 第12回 唐代伝奇
- 第13回 唐代伝奇
- 第14回 唐代伝奇
- 第15回 まとめ、期末試験

5. 成績評価方法：出席状況（50%）、期末試験（50%）

6. 教科書および参考書：〈教科書〉『傳奇小説』漢文資料編集會議編、大修館書店、1971 年

7. 授業時間外学習：指定したテキストの授業当日の該当箇所を予習してくること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

授業には辞書を持参すること。

オフィスアワーは中国語学中国文学研究室（619）で毎週月曜日 14：10～14：40 とする。